

# 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 在宅介護実態調査 調査結果報告書（広報版）

## I 調査概要

### 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

本市では、高齢者福祉の一層の充実と介護保険制度の円滑な実施に向け、「香美市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定を行います。

本調査では、身近な内容で、高齢者の状態や自立した生活をおくる上での課題、今後の意向等をよりの確に把握することを目的としました。

対象者	令和元年11月30日現在、香美市内にお住まいの65歳以上の方 (要介護1～5認定者を除く)
実施期間	令和元年12月6日(金)～令和元年12月27日(金)
実施方法	郵送配布、郵送回収

	配布数	有効回収数	有効回収率
全体	8,700件	4,768件	54.8%
土佐山田圏域	6,070件	3,242件	53.4%
香北圏域	1,752件	1,009件	57.6%
物部圏域	878件	517件	58.9%

※締め切り以降の返送分、本人が入院中・入所中等の理由により回答ができないと記載があったもの、全問無回答等の調査票は有効回答に含まれていません。

### 2. 在宅介護実態調査

本調査は、国が示した調査票案から一部設問を削除及び市独自の設問を追加した形で、令和3年度からの第8期介護保険事業計画策定に向け、現状を把握し、基礎資料にするとともに「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」を検討するうえでの基礎資料とするため実施しました。

対象者	令和元年9月1日現在、要介護1～5認定者
実施期間	令和元年9月2日(月)～令和2年1月31日(金)
実施方法	認定調査員による聞き取り
有効回収率	93.8% (469件/500件)

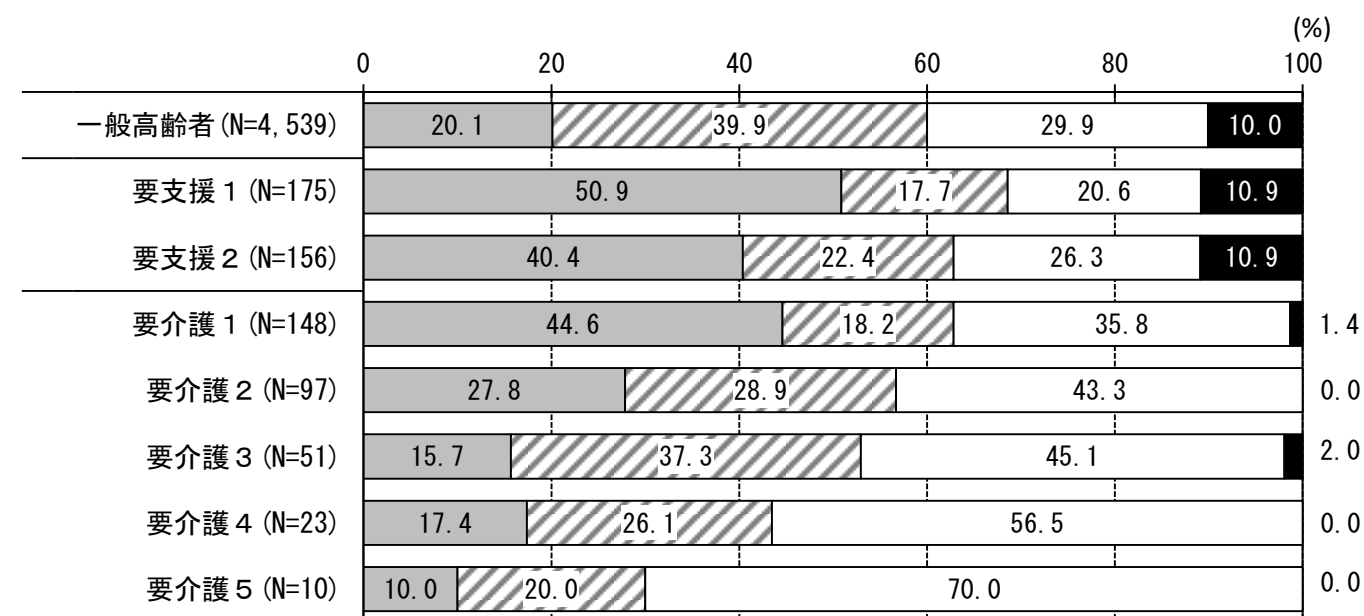
※締め切り以降の返送分、本人が入院中・入所中等の理由により回答ができないと記載があったもの、全問無回答等の調査票は有効回答に含まれていません。

## II 調査結果

### 1. 世帯構成について

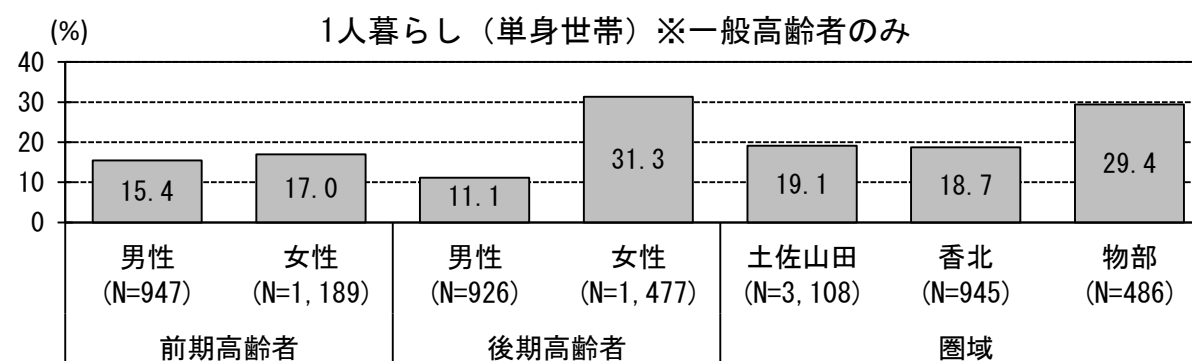
一般高齢者では全体の20.1%が1人暮らし(単身世帯)となっており、前期高齢者・後期高齢者ともに男性より女性に多く、特に、後期高齢者の女性では31.3%を占めています。圏域別にみると、物部圏域(29.4%)が他圏域に比べて多くなっています。

要支援・要介護認定者を介護度別にみると、要支援1(50.9%)に最も多く、次いで、要介護1(44.6%)、要支援2(40.4%)、要介護2(27.8%)、要介護4(17.4%)、要介護3(15.7%)、要介護5(10.0%)の順で1人暮らし(単身世帯)が多くなっています。



- 1人暮らし(単身世帯)
- ▨ 夫婦のみ世帯(配偶者65歳以上・64歳以下)
- ▧ その他(息子・娘との2世帯、その他)
- 無回答

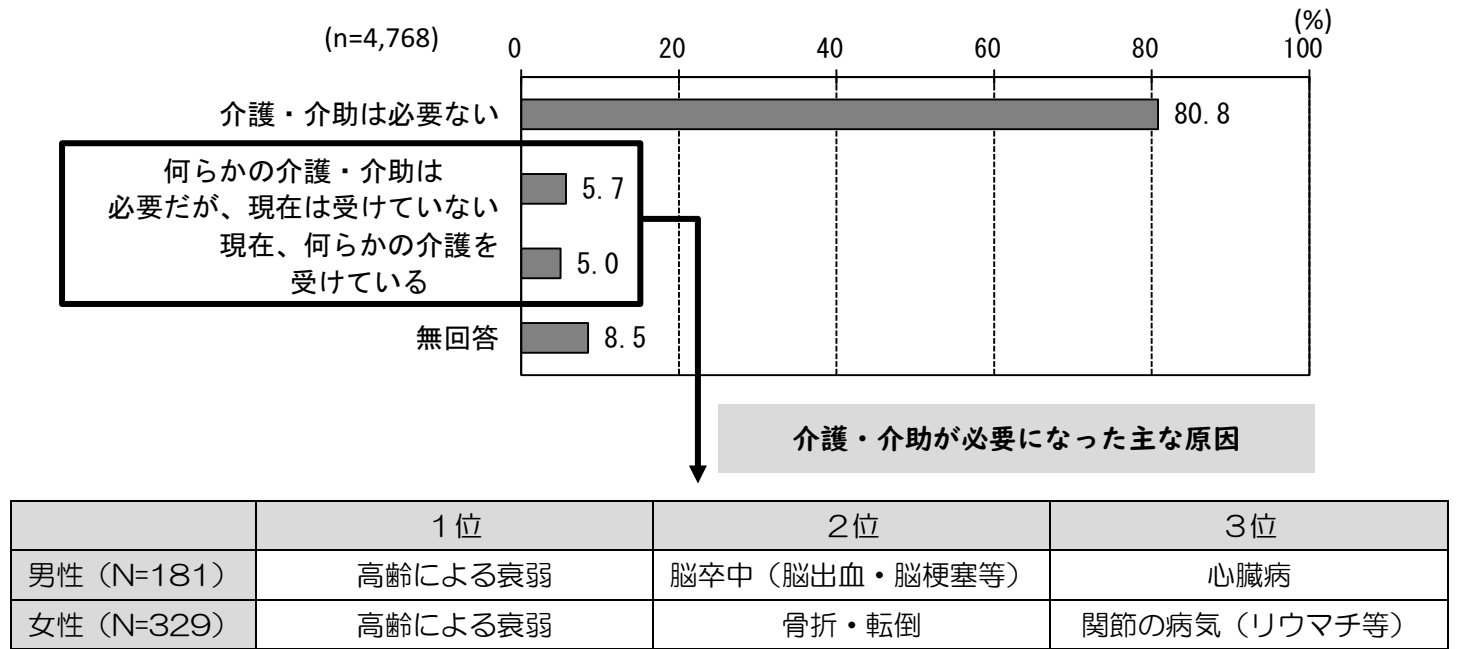
※要支援1・2に関しては、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と在宅介護実態調査の回答者を合算しています。



出典：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査

## 2 介護・介助について

普段の生活でどなたかの介護・介助が“必要な方”は全体の10.7%を占めています。介護・介助が必要になった主な原因は「高齢による衰弱」が最も多くなっていますが、次いで、男性は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、女性は「骨折・転倒」が多くなっています。



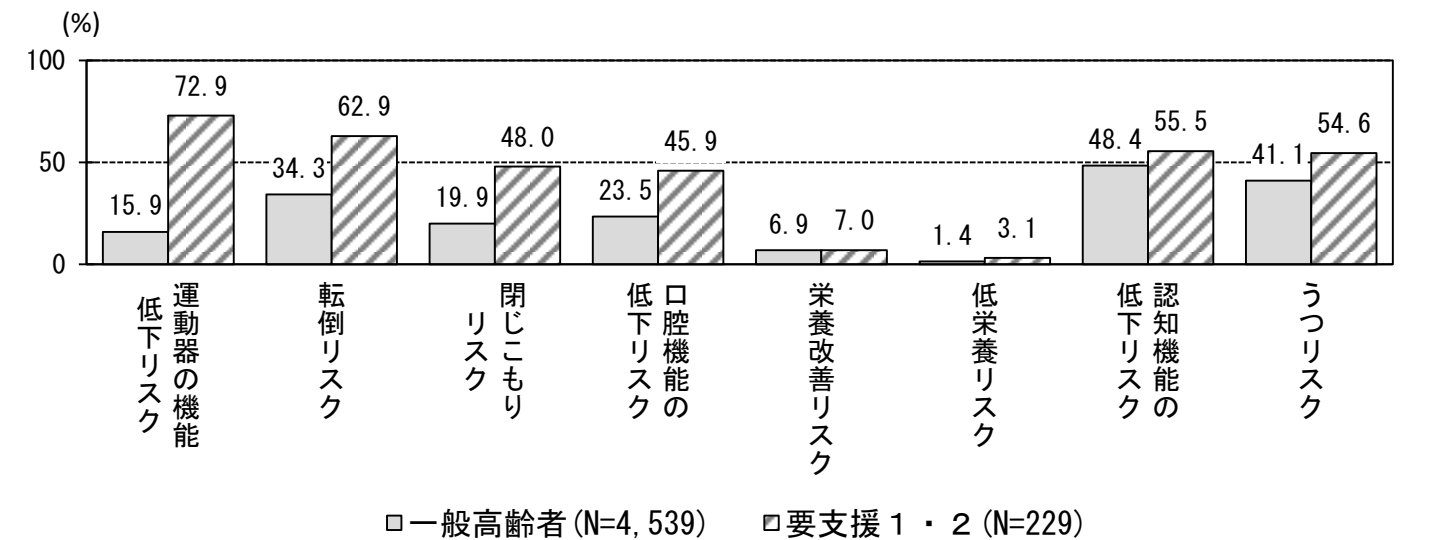
出典：介護予防・日常生活圏域二エズ調査

## 3 各種リスク判定について

調査項目の回答内容より各種リスク判定を行いました。

一般高齢者（要介護・要支援認定を受けていない方）と要支援1・2の方を比較すると、いずれも要支援1・2の割合が高くなっており、特に、運動器の機能低下リスクでは57ポイントと大きく差が出ています。

運動器の機能低下リスクは、年齢が上がるにつれて該当者が増加しており、男性より女性に多くなっています。女性は運動頻度が男性より少なく、介護・介助が必要になった主な原因の2位が「骨折・転倒」、3位が「関節の病気（リウマチ等）」となっていることから、地域で行っている「香美はつらつ体操」などを活用した適度な運動が重要となっています。

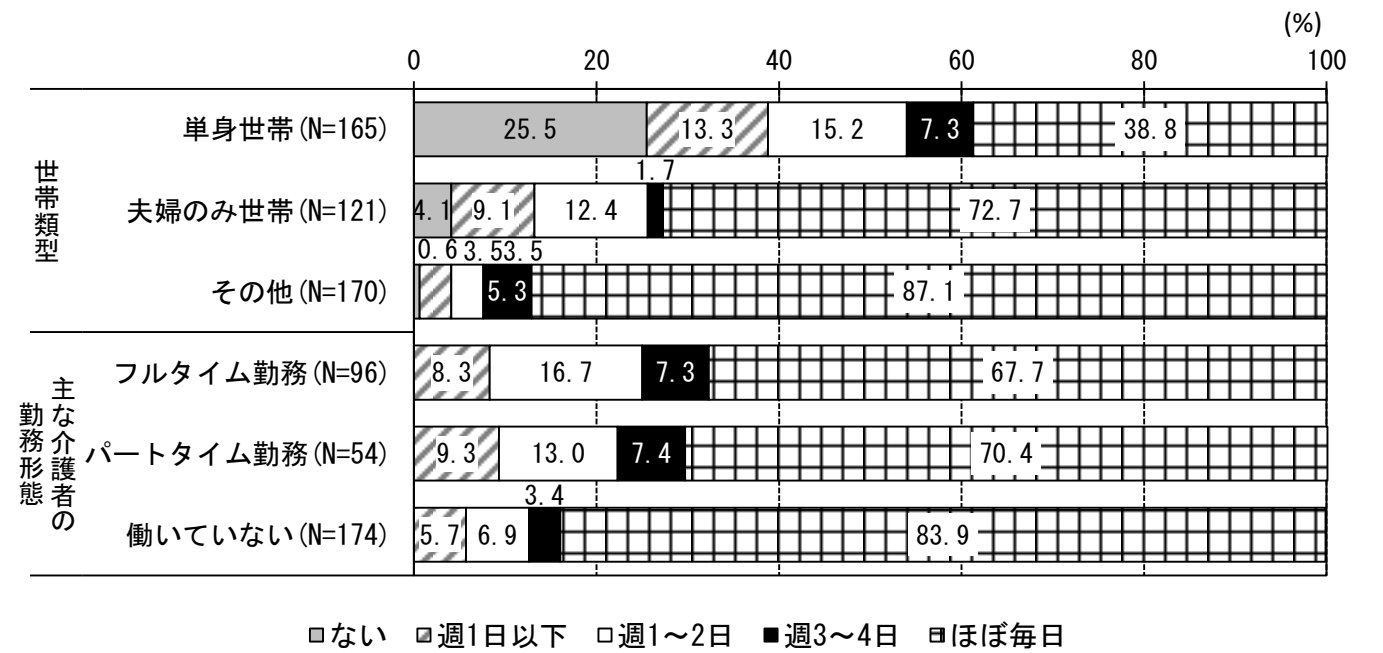


出典：介護予防・日常生活圏域二エズ調査

## 4 家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度を世帯類型別にみると、単身世帯（38.8%）、夫婦のみ世帯（72.7%）、その他（87.1%）の順で「ほぼ毎日」と回答した方が多くなっています。

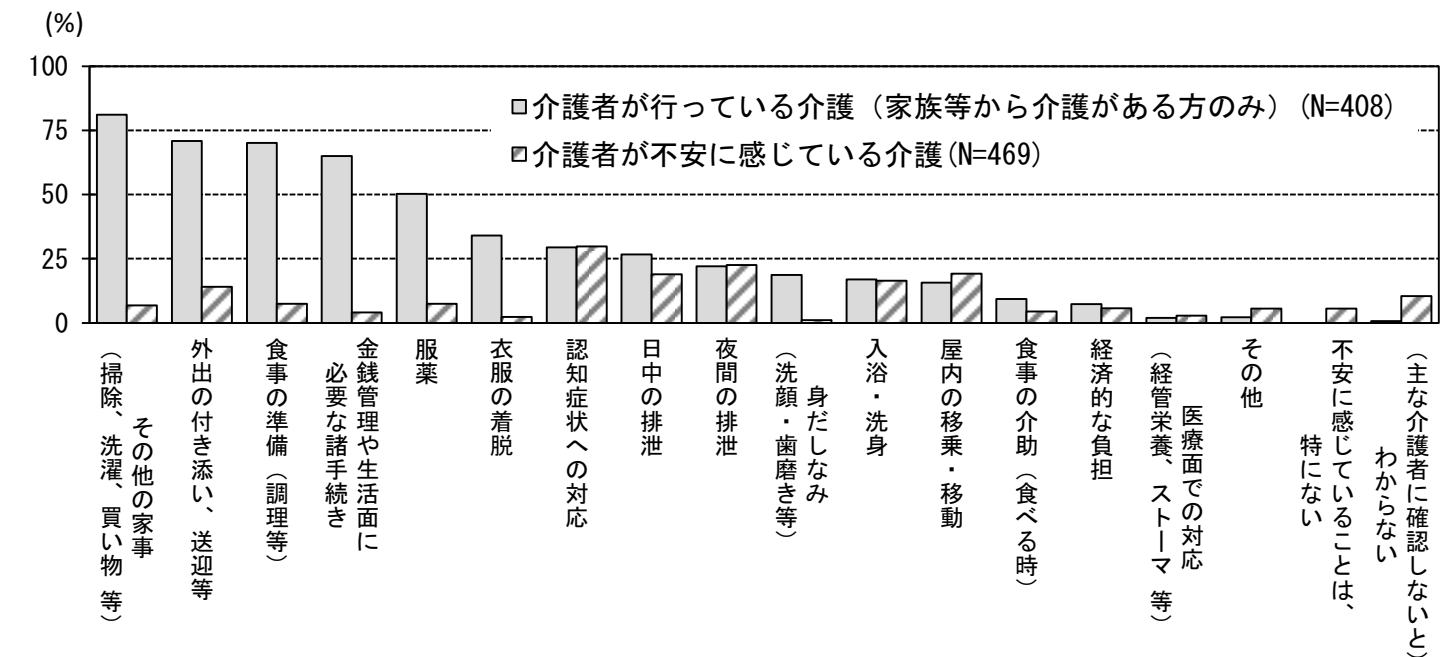
主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイム勤務（67.7%）やパートタイム勤務（70.4%）に比べて、働いていない（83.9%）ほうが介護の頻度が高くなっています。



出典：在宅介護実態調査

## 5 現在、主な介護者が行っている介護等と介護をするうえで不安に感じること

主な介護者が行っている介護は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「家事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の順となっています。今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」の順で多く、主な介護者が行っている介護の割合を上回っています。



出典：在宅介護実態調査